

令和6年度 第1回葉山町公共下水道審議会 議事録（概要版）

日時 令和6年10月18日（金）13:30～15:00

開催場所 葉山町役場 議会協議会室1

出席者 ○委員

加藤 裕之委員【会長】、難波 悠委員【副会長】（ZOOM）、青木 拓哉委員
小碓 聡史委員、高木 厚委員、守谷 寿浩委員、黒下 行雄委員
奥井 名奈子委員

○事務局

新倉、藁科、阿比留、秋本、川鍋

議事

1. 開会
2. あいさつ
3. 委嘱状の交付
4. 委員の紹介
5. 正副会長の互選
6. 公共下水道審議会への諮問(葉山町長からの説明)
7. 内容【概要説明】
 - ①審議事項の概略説明
 - ②葉山町下水道事業の現状・課題
 - ③他自治体との比較
 - ④今後の公共下水道審議会の開催スケジュールについて
8. 閉会

1. 開会

第1回葉山町公共下水道審議会の開会にあたり、委員出席者が過半数（出席8名/全9名）に達しており、会議が成立していることを報告した。

2. あいさつ

山梨町長からの挨拶

- 順次面整備工事等を進めており、もう少しで完成というところまで来ている。
- そこで、委員の皆様には本審議会でも議論頂きたいテーマが下水道使用料である。葉山町は平成11年3月の供用開始以降で下水道使用料の改定を一度も行っておらず、一方で近年の物価高・人件費高騰などの要因を考慮した下水道使用料に改定に向けて、多くの自治体が動き始めている状況である。
- 10月から水道料金も値上げされ、下水道使用料も申し訳ないが、時代に合わせていきたいと考えており、使用料改定の是非について皆様にご議論いただきたい。
- 委員皆様方の議論が、町民の方々に一定の痛みを伴う改革になると思うが、ここは町として忌憚ないご意見を何卒よろしくお願いしたい。

3. 委嘱状の交付

山梨町長より、各委員への委嘱状を交付した。

4. 委員の紹介

各委員、事務局より自己紹介を行った。

5. 正副会長の互選

- 会長に加藤委員、副会長に難波委員を事務局より推薦し、委員より同意頂いた。
- 本審議会は原則公開で実施すること、審議会の議事録は発言者の名前と発言内容の概要を町ホームページに原則公開することをそれぞれ各委員に了解・確認頂いた。

6. 公共下水道審議会への諮問

山梨町長から加藤会長に対して、公共下水道審議会への諮問書を渡した。

- 下水道使用料および減免制度の審議について諮問する。答申は令和 7 年 6 月 30 日までに提出してください。

7. 概要説明

①審議事項の概略説明

審議事項の概略として、事務局より配布資料を参考に以下の項目を説明した。

- 葉山町の下水道事業を取り巻く環境は大きく変化しており、二つの課題が表面化している。
- 1 点目は、本町の下水道事業は、汚水処理に必要な費用を下水道使用料で賄えておらず、財源を一般会計からの繰入金に大きく依存している。一般会計からの繰入金の依存度を減らしていくための財源確保に向け、使用料改定の検討が急務となっている。
- 2 点目は、葉山町では下水道使用料の一部または全部を減免している制度を設けており、減免された分の使用料収入に対して、一般会計等からの補填ではなく、下水道事業会計の自己財源で賄っている状況である。本審議会では減免制度の要否を議論するのではなく、使用料改定後も含めた減免額の財源のあり方について審議して頂きたい。

事務局の説明を受けて、各委員からの質疑応答は以下のとおりである、

○黒下委員

説明資料で和暦と西暦が混在してわかりづらいので、和暦と西暦の比較表を作って欲しい。

○事務局（秋本）

今後の資料では、和暦（西暦）にするなどで記載を統一する。

○高木委員

葉山町の一般会計繰入金の内訳の名目、費目はどうなっているのか。また、福祉的な部分は、普通交付税で算定されない特別交付税も多分取れると思うが、特別交付税の算定費目がどのようなものがあるのか概要を無理のない範囲で教えて頂きたい。

○事務局（秋本）

今の繰入金と特別交付税の該当部分を次回審議会の資料で提示したい。

○高木委員

経営戦略を令和 2 年に策定したとき、審議会を受けて位置づけたものか、行政の内部でオーソライズされたものか。町民に対しての広報・周知は、どのような状況でされていたのか。

○事務局（秋本）

令和２年度の下水道経営戦略は、審議会は設けておらず、町側で策定したものを議会に説明させて頂き、さらにパブリックコメントを実施し、策定しました。ただし、今回は使用料改定の部分が非常に大きく影響するため、今回の審議結果を踏まえて、さらに下水道経営戦略改定の際には、再度パブリックコメントを実施し、町民の方からも意見集約を図って行きたい。

○高木委員

令和２年度経営戦略での使用料改定の第一段階の年数・上昇率が、今回の審議会で拘束されるかと思いましたが、そのようなことはなく今回の重要な審議事項ということで確認しました。

○小碓委員

現行の経営戦略がベースとなり議論を進めるとのことなので、経営戦略を印刷していただきたい。また、有収水量、使用料収入の経年推移だけでなく、普及率、接続人口の経年推移も示して頂けると、有収水量と使用料収入の見方が少し変わってくると思います。水道ではほぼ 100%に近い普及率を前提とした議論ができるが、下水道では普及を進めてきたプロセスでの議論になり、その水準の見方が違ってくるかと思っています。次回以降教えて頂ければと思います。

○事務局（秋本主査）

わかりました。準備させていただきたいと思います。

○黒下委員

下水道使用料は水道料金と合わせて徴収していますが、水道料金を支払っている家庭が何件あり、その中で下水道使用料を支払っているのが何件あるのでしょうか。葉山町が議会等に出している接続率は、人口密度に面積を掛けているので、実際かなり乖離があるのではないかと。

接続率は上がり、人口が減っている現状で、それらを組み合わせた資料が非常に重要なので、そのデータを次回に出していただけますか。

○事務局（秋本主査）

わかりました。先程の普及率と合わせて、接続率の方も準備したいと思います。

○加藤会長

有収水量原単位は 2013 年～2023 年はあまり変わっていない。

○事務局（秋本）

2019 年から 2020 年、2021 年と上がりつつ、2022 年 2023 年に以前のように戻ってきている。現在の社会情勢に起因しているものかを調べてお伝えしていきたい。

②葉山町下水道事業の現状・課題

葉山町下水道事業の現状・課題について、事務局より以下の項目を説明した。

- 葉山町の人口は、平成 24 年（2012 年）11 月をピークに微減傾向になっている。他自治体に比べれば人口減少は緩やかだが、葉山町も人口減少が迫ってきている。
- 下水道整備の状況は、平成 4 年度に下水道事業に着手、平成 10 年度末に供用を開始した。令和 5 年度末で、普及率 76.5%、整備率 84.6%、水洗化率 88%となっている。残りの区域の整備は現在実施しており、処理区域内人口、水洗化人口の将来予測は、令和 6 年度まで上昇、令和 10～12 年までは横ばい、それ以降は右肩下がりになっている。

- 葉山町下水道課の職員数は、下水道供用開始時の平成 11 年(1999 年)の 11 人をピークに、減少傾向にあり、令和 6 年 4 月 1 日の職員数は 7 名である。今後の修繕・改築等を考慮すると、技術職員の確保は下水道だけでなく、葉山町全体で大きな課題となっている。
- 管渠施設は、平成 4 年から整備を行い、平成 10 年に供用開始以降、順次下水道整備を行っているため、下水道事業で整備した管渠は、標準耐用年数 50 年を経過するものはない。一方で、昭和 47 年度に管渠整備を行った団地があり、整備後 50 年が経過しているため、今後点検・調査を実施する必要がある。
- 処理場・ポンプ場施設は、場内の機械・電気設備の標準耐用年数が 15 年であり、供用開始後 20 年以上経過しているため、老朽化に伴う早急な修繕・改築等が必要になっている。
- 財務状況は、令和 5 年度収益的収支は黒字となっているが、収入全体の 48.5%を他会計補助金（一般会計繰入金）で賄っており、独立採算制の観点から、一般会計繰入金依存の解消に向けての取組が重要だと考えている。
- ただし、公営企業は受益者負担に基づく独立採算を原則としているが、民間企業と異なる特殊性があるため、経営に伴う収入（下水道使用料）で充てることが客観的に困難であると判断できるものに対して、一般会計繰入金は認められている。
- 葉山町下水道事業の現状とまとめとして、ヒト・モノ・カネの視点で三重苦の課題に直面している状況で、長期的な下水道事業の運営には、これらの課題解決に向けた取組が必要。
- 課題解決の取組として、葉山町では行政：官、民間事業者：民の官民連携を強化しており、これまでの官民連携の事業実績として、平成 30 年度から令和 4 年度までに、未普及解消事業として、設計と施工を一緒に民間の方に発注する取組を実施した。その効果として、事業期間を 2 年間短縮でき、コストも約 4 億円削減することができた。
- 現在進行形の取組として、葉山浄化センター等整備・運営事業として、浄化センターの機械・電気設備の増設と、監視設備の改築を併せて設計・施工一括発注方式で、さらに、維持管理を民間事業者に委託する包括的民間委託を実施している。

③他自治体との比較

続いて、葉山町下水道事業の他自治体との比較について、事務局より以下の項目を説明した。

- 1 か月 20 m³当たりの下水道使用料は、県内平均 2,304 円、葉山町 2,244 円であり、ほぼ平均的な金額になっている。
- 昨今の物価上昇、電気代値上げに起因して、全国的に 8～9 割の自治体で下水道使用料の改定検討を進めている状況にある。神奈川県でも近年使用料改定を実施した自治体がある。
- 下水道使用料で賄うべき経費をどの程度賄えているかを示す経費回収率は、現在 73.9%になっており、県内平均 89.4%を大きく下回っている状況である。

事務局の説明を受けて、各委員からの質疑応答は以下のとおりである、

○加藤会長

23 ページにシーソーの絵がありますけれども、一言で言うと葉山町は今このような状況にあるということですよね。

○事務局（秋本）

今現在の葉山町がこの状況になりつつあり、このシーソーの右側の方がどんどん上にくるため、現在の葉山町の経営状況をまさに表している絵になっていると思います。

○高木委員

葉山町特有の位置関係とは思いますが、上に処理場、下にポンプ場があります。他都市では、自然流下して処理場で処理をするという原理からすると、ポンプ場の電気代が多額になっていると理解していいですか。それとも位置や立地によっては影響しないのですか。

○事務局（秋本）

やはり、他の自治体に比べると、中継ポンプ場から浄化センターまで 4.7 キロを圧送しているのは珍しく、他自治体よりも電気代はかかっています。

○高木委員

維持管理費として 3 億 6,000 万円が計上されていますが、電気代が響いているのでしょうか。

○事務局（秋本）

全国的に電気代の値上げがありましたが、葉山町でも電気代の影響が非常に大きかったです。

○加藤会長

人口密度が低いと非効率ですが、葉山町は全国的にみても人口密度は低くないと思いますが。

○事務局（秋本）

人口密度は高水準にあり、無駄がなく効率的に処理ができていると考えています。

○青木委員

管渠に関して比較的新しいため、現在、道路の陥没とかは発生していない状況でしょうか。

○事務局（秋本）

現在、道路陥没は発生していませんが、令和 7 年度末に受け入れ予定の 3 団地を含めて、昭和 47 年度に建設された管渠がありますので、今後陥没のリスクは増えていくかと思います。

○青木委員

更新・投資額について、これまでと今後の推移を次回以降ご説明頂きたいです。

○事務局（秋本）

直近の葉山町の維持管理費の伸びと物価上昇について、次回以降示せるようにしていきます。

○守谷委員

葉山町の人口はだいぶ減って高齢化が進んでいる。今回は、公共下水道の審議ですが、葉山町全体として人口増加に繋がるような対策とかも併せて検討していくべきではないか。

○事務局（秋本）

その通りだと思っておりますので、次回以降に町全体としての人口減少に対する取組や、総合計画などの改定も行っていますので、そのあたりの情報も簡単にお伝えしたいと思っております。

○加藤会長

葉山町では、10 年後などの人口・観光等のビジョンとかはありますか。

○事務局（秋本）

葉山町第五次総合計画でも人口は減るものとして、その順応策の検討がメインとなっています。葉山町全体では人口減少をなるべく緩やかにする策を検討していく想定されるため、大幅な人口増加を望む策は町として考えていないのが実態かなと思います。

○黒下委員

他自治体との維持管理費の比較で、例えば整備面積とか人口とか、比率で比較できるものはあ

りますか。葉山が本当に高いのか、比較は何かありませんか。

○事務局（秋本）

そもそも処理場を持っているか持っていないかの視点が、自治体によって差がありますので、類似団体の比較では処理場を持っている自治体と比較しております。また、逗子市と維持管理費を比較したときに、電気代が 1.5 倍ぐらい葉山町の方が高いですが、その他の部分は逗子市が高いところもあるので、そういった比較ができる資料を示したいと思います。

○加藤会長

1 m³の水を処理するための費用を示す汚水処理原価を見ると、葉山町は令和3年度で156円/m³、全国の類似団体は180円/m³ぐらい、東京とか大阪でも多分150円ぐらい。だから、そんなに極端に高くないかもしれないです。人口密度は、町レベルにしては高いかなと思います。

○加藤会長

奥井委員は、毎月水道料金を払われていて、高いとか安いとかを感じられることとかありますか。実際住民の方がどのように考えられているのか興味があるのですが。

○奥井委員

やはりコロナで在宅になった時、増えたので実感しました。学校が始まってそこで緩やかに減りはしたのですが。先程のコロナ以降も下水道使用量が減らないのは、コロナが収束しても若干在宅率が高いのかなという感覚があります。これから、在宅で仕事ができる人が葉山ではすぐには減らないのかなと個人的には思いました。その特異性が葉山の土地柄として感じています。

○事務局（秋本）

奥井委員が言われた通りで、実際感じているとおり、令和2年度に在宅が増えたというのはやはり実績を見る限りおっしゃる通りだと思います。

④今後の公共下水道審議会の開催スケジュールについて

今後の審議会開催スケジュールについて、事務局より以下の項目を説明した。

- 第2回審議会は11月20日水曜日10時半から12時で実施。
- 第2回では、使用料の対象経費の算定方法に加えて、今日委員よりご意見頂いた内容についても説明していきたい。
- 下水道分野の用語がわかりづらい箇所があるので、次回以降で用語集・解説を準備する。
- オンラインでの参加も可能のため希望される場合、事務局の方に意見を頂きたい。

事務局の説明を受けて、各委員からの質疑応答は以下のとおりである、

○加藤会長

処理場見学などの開催は可能ですか。

○事務局（藁科課長）

もちろん可能です。希望があれば、審議会に併せて企画させていただきます。

○黒下委員

使用料の対象がどこまでなのかイメージがわからない。今日の説明では、維持管理だけなのか、維持管理の定義も色々あり、例えば古い設備の更新、定期点検も入るのか、概念を知りたいです。

○事務局（秋本）

今回の資料に示していきたいと思います。

○高木委員

先程、ご自分の水道・下水道使用料を知ってますかという話がありましたが、2 ヶ月に1回請求が届くうちの使用料を確認したところ、1回分で73万円ぐらいでしたが、料金表を見ると、基本料金1,280円で、そこから10段階に応じて、従量料金の超過料金設定が入っています。

実際、令和5年度の決算も出ていると思うのですが、基本料金だけで済んでいる請求が何件、1ランク、2ランク、3ランク・・・、10ランクはそれぞれ何件あって、各ランクの使用料収入がいくらなのか。今後も、この計算をしていくのか、適正な割り振りはどうなのかというところを確認させていただいて、その割り振りを検討しても大丈夫なのかと思っています。

また、次回以降の審議会開催するにあたっての資料配布は、どのぐらいのタイミングでいただけるようなご予定でしょうか。机上配布でいただくものでしょうか。

○事務局（秋本）

まず、前段の下水道使用料の水量別の人数・料金の実績は、こちらで把握しているものがありますので、今後準備して示させて頂きたいと思っております。

次に、資料の配布時期については、今回の机上配布ではなくて、次回以降は事前にメールの方でお送りし、紙配布は当日を予定しています。オンライン参加をご希望された方には、郵送でお送りすると考えています。皆様にメール等で周知をさせて頂きます。

○高木委員

今日の資料は、非常に中身が濃く良い資料を作って頂いているのですが、今日、丁寧に説明していただいても、付いていけない部分もありますので、事前に予習をしてという方が良い議論ができるかと思います。お手数おかけしますが、よろしくお願いします。

○難波副会長

先程からの人口などの話をして頂いた中で、下水道が成り立つか、成り立たないのかとか、人口密度の分布などを見せて頂けると参考になるかなと思いました。あと、できればどこかで現地を見られる機会があればいいなと思っています。

○加藤会長

それでは、現地説明の方は別途企画をいただくよう、お願いします。

8. 閉会

第1回の審議ありがとうございました。引き続き、委員の皆様のご意見等を頂戴したいと思っておりますし、事前に資料などを配布し、丁寧な説明をさせていただくよう心掛けていくよう考えておりますので、引き続きよろしくお願いします。

以上